

---

# 大湾区情報 No. 20

グレーターベイエリア情報 発行：2021年9月14日



---

「大湾区情報」では、日系企業の皆様に有用と考えられる最新情報をいくつかピックアップしお届けします。

## 【仏山のデジタル・インテリジェント化が巨大な市場需要を生み出す】



深圳証券取引所上場の中国国内大手家電メーカー、美的（Midea）グループ（仏山市順徳）の子会社でドイツに本社を置く産業用ロボット製造の庫カ（KUKA）社は、2021年の上半期業績報告書を公表しました。当報告期間中のKUKAの受注高は18億8,800万ユーロ（前年同期比52.2%増）、売上高は15億

---

2,900 万ユーロ（前年同期比 30.9%増）、税引後利益は 2,600 万ユーロ（前年同期比 100%以上増）となりました。

マーケットの絶好のチャンスをとらえ、今年 4 月、仏山市順徳にて「Midea-KUKA インテリジェント製造科技园」の第 2 期工事が開始されました。今後 3～5 年の開発ニーズに対応するため、1 年半以内に 6 棟の建設を完了させる予定です。この計画によると、同科技园では、今年 14,000 台のロボットを生産販売、その生産額は 20 億人民元に達する予定です。

国内のロボットの 5 分の 1 を生産する産業ハブである仏山は、ロボット企業にとって益々魅力的な場所になっています。今年の上半期だけでも、エクストン（ESTUN）、川崎重工、藍胖子（Dorabot）などの国内外の主要なロボット企業が進出してきており、現存企業の拡大と相まって、現地のロボット産業は拡大を続けられており、急速な発展の時期を迎えています。

仏山市の「第 14 次 5 ヶ年計画」によると、2025 年までに、インテリジェント生産設備やロボットなどの 4 つの主要産業クラスターの生産額が 3,000 億人民元に達するとしています。仏山のロボット産業は更なる飛躍の転機を迎えており、製造業もデジタルインテリジェンスによる変革の新しい波を引き起こし、かつてない発展のチャンスが訪れています。

### 大手企業が製造ハブに集結 拠点を先取り

Nanjing Estun Automation Company（南京エクストン）は、三龍湾順徳潭州コンベンションセンター南区にある土地を落札し、その持株会社が隣接する土地を落札しました。2 つの敷地は合計 70 畝（ムー）\*で、4 億人民元以上の投資を行い、2 つのインテリジェント製造拠点を建設します。

\*畝（ムー）：中国の伝統的な面積の単位で、1 畝は 6000 平方尺（6.67 アール）にあたる。

---

1993年に設立されたエクストンは、当初はコンピューター数値制御(CNC)工作機械のビジネスを展開していましたが、2011年よりロボット分野に進出しています。同社は、仏山市三龍湾に投資し大湾区本部を設置し、買収したヨーロッパの溶接ロボットのトップ企業であるCLOOS社と共にCLOOS溶接ロボット（華南）技術センターを建設し、仏山市が産業用ロボットからシステムインテグレーションまでの産業チェーン全体の発展パターンを形成するのに役立つと期待しています。

エクストンのみならず、4月、川崎重工業グループのカワサキロボティクス（川崎機器人; Kawasaki Robotics）は地元仏山の隆深機器人有限公司（ROSSUM）と手を結び、1億人民元を投じて合弁会社を設立しました。合弁工場への投資額は10億人民元に達し、2021年8月の生産開始を予定しており、年間売上高は8億人民元となります。

カワサキロボティクスは、産業用ロボットの研究開発と製造に強みを持つ、世界5大ロボットブランドの1つです。ROSSUMは、仏山の新興ロボット企業であり、家電ロボットの研究開発・製造で主導的な優位性を持っています。2015年には中国の家電業界における代表的なシステムインテグレーターの分野のリーダーとなりました。

両社の協力関係には長い歴史があります。2014年にROSSUMとカワサキロボティクスは代理店関係を確立し、2017年には両社が共同で中国初のエンジニアリング研究開発センターを設立し、ROSSUMの自動車産業への参入に大きな弾みをつけました。現在、両社は合弁での工場建設のために深く手を取り合っており、ロボット本体製造におけるさらなる飛躍を目指しています。

カワサキロボティクスとROSSUMの協力関係は、典型的な例といえます。近年、産業構造の変化に伴い、ROSSUMやJaten Robotics（嘉騰機器人）など、仏山の地場のロボット企業が台頭してきました。「カワサキ前」には、ABB、KUKA、ファナック、安川電機の世界4大産業ロボットメーカーが進出しており、「カワ

---

サキ後」には、国内のリード企業エクストンが頭角を現してきました。

4年前、Mideaと大手不動産業者の碧桂園（Country Garden）はロボット分野に異業種から進出し、MideaはドイツのKUKAを292億人民元（36.2%のプレミアム）で買収、Country Gardenは順徳ロボットバレーの建設に800億人民元を投資することを発表しました。

MideaがKUKAと手を組んだ2年目（2018年）、KUKAのCEOであるティル・ロイター氏の退任が年初に報道されました。当年度KUKA社の業績は急激に悪化し、売上高6.8%減、利益80%減となりました。また、KUKA社を含むロボティクス&オートメーションシステム事業は、Mideaグループの中で唯一減収の業務となりました。

2019年、KUKA社の年間総売上高は31億9,070万ユーロで、2018年の同時期に比べて1.6%減少しました。2020年は、新型コロナ肺炎流行の影響により、KUKA社のビジネスはさらに後退し、年間の売上高は前年比19%減となりました。このように下落傾向が継続された状況で、Mideaは何度も批判的的となりました。

KUKAの業績が低下する中、MideaはKUKAに事業戦略の調整を促し、特にKUKAの現地化プロセスを積極的に推進しました。2018年には、前述のように、順徳に「Midea-KUKA インテリジェント製造科技园」の建設をスタートさせました。

今年の上半期の営業データを見ると、KUKA社の国内での業績は顕著です。KUKAグループ中国支部の上半期の受注総額は3億5710万ユーロ（前年同期比43.2%増）、売上高は2億6230万ユーロ（前年同期比97.2%増）であったと開示されています。KUKAグループの上半期の累積受注額は、前年同期比52.2%増の18億8,800万ユーロとなりました。業績の面からみると、KUKA社は状況を好転させることに成功しました。

---

Country Garden 傘下の博智林 (Bright Dream Robotics) についてはしばらくの沈黙を経て、今年の上半期に明るいニュースが多くありました。2月には、同社が50種類近くの建設用ロボットとインテリジェント製品を開発していると発表され、3月には最初の商用利用プロジェクトの公開と合わせて18種の建設用ロボットが商用化されたことが発表されました。8月24日、Country Gardenの莫斌社長は中間決算会見において、Bright Dream Roboticsの建設用ロボットとインテリジェント建設ビジネスは来年には黒字転換が可能であろうと述べました。

仏山市は、いち早く産業用ロボットの産業パークを建設し、中国の主要なロボット生産地の一つとして発展してきましたが、中国国内の他のライバル地域との競争もますます激しくなってきました。

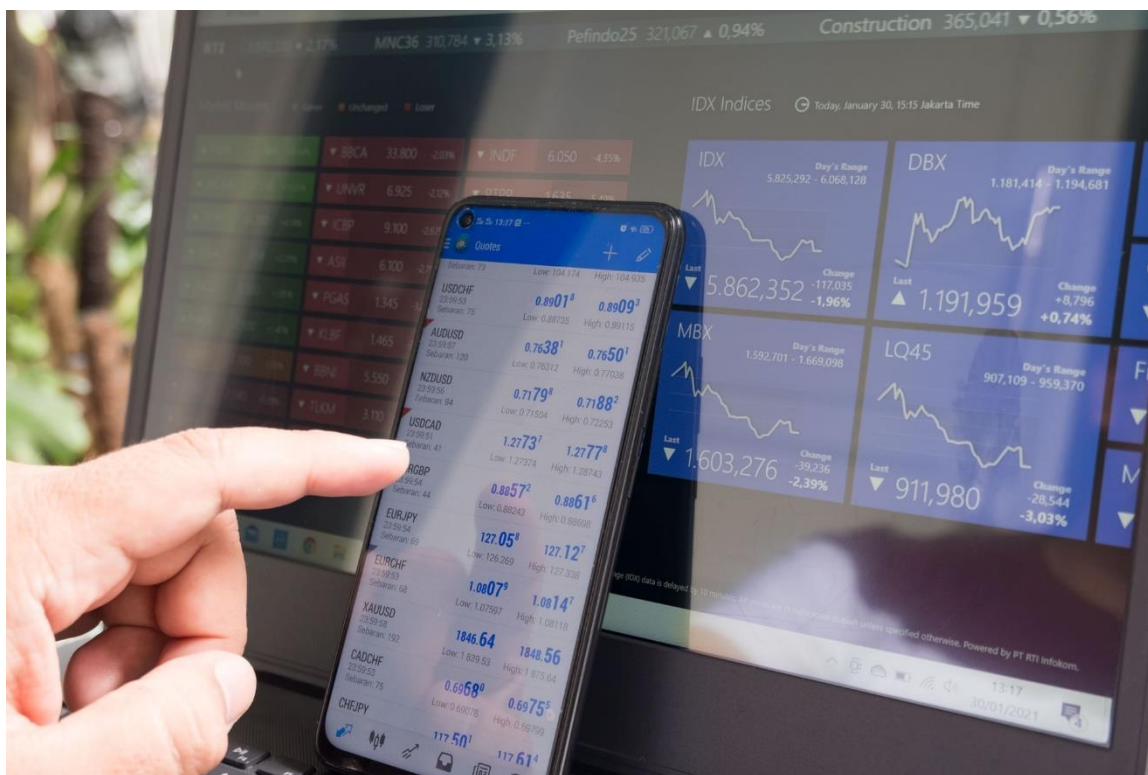
大規模な製造業の都市である江蘇省蘇州市のロボット産業の発展見通しは近年非常に明るく、産業用ロボットとインテリジェントロボットの2つのカテゴリの製品には、完全な産業チェーンが形成されています。蘇州市昆山には、100ムー以上の面積を持つ国家レベルのロボット産業パークがあり、哈工大機器人グループ (HRG) や艾博機器人 (ABLE ROBOTICS) など、すでに数十社のロボット企業が集まっていることは特筆すべきことです。

広東省では、仏山にほど近い東莞市でも、近年ロボット産業の発展を積極的に推進しており、今年上半期において東莞の産業ロボット市場のプレイヤー数は大幅に上昇し、産業用ロボット生産量は前年比で123.3%増加しました。

2020年末の統計によると、仏山市の規上企業(\*\*)でロボットを使用しているのは7.5%に過ぎません。これは製造業がデジタル化やインテリジェント化を推進するにつれて、仏山でのロボット需要の爆発的増加が到来する大きな可能性を示しており、仏山のロボット産業の発展にとって大きなチャンスとなることが予想されます。ロボットの需要急増のチャンスをいかに活用し、産業の欠点を補い、新たな段階に進むかということが仏山にとっての課題となっています。

\*\*規上企業：年間主要事業収入が2,000万人民元以上の産業企業のことを指す。

## 【217 社の大湾区企業が深圳 GEM 上場 1 年間で 44 社が新規上場】



2020 年 8 月 24 日に深圳の成長企業市場（GEM）登録制のパイロットスキームがスタートし、ちょうど 1 周年となりました。この 1 年で、GEM の規模の拡大が加速化されました。今年 8 月 20 日の時点で、この登録制により 182 社が深圳 GEM に上場し、その数は GEM 総上場企業数の 18% を占めています。1,011 社、時価総額 12 兆 7,700 億人民元の深圳 GEM は、米国のナスダック市場（NASDAQ）に次ぐ世界第 2 位の GEM 市場です。

深圳証券取引所によると、登録制の新規上場企業 182 社は、コンピュータ、通信、その他の電子機器製造などのハイエンドの製造業やサービス業が中心となっています。そのうち、ハイテク企業は 157 社で 86% を占め、主要な技術や製品で国際的にまたは国内でのリーダーとなっている企業は 125 社、業界で最先端分野で研究を行っている企業は 66 社、28 社が中国工業及情報化部（Ministry of Industry and Information Technology/ 工信部）が特化企業や特別新興企業として

---

認定した「“専精特新”小巨人」企業であり、彼らの IPO 総額は 156 億人民元でした。新たに増加した登録制上場企業のうち、大湾区の企業は 44 社で、全体の 24.2%を占めています。

### 深圳 GEM には 217 社の大湾区企業が参加

データによると、1,011 社の GEM 企業のうち、大湾区にある企業は 217 社で 21%を占め、そのうち計 44 社が新たに登録制による上場となっています。深圳一都市だけでも 127 社企業が上場しており、セクター内の企業総数の 13%を占め、そのうち 29 社が新たに登録制により上場しており、深圳市が大湾区に国際的な科学技術イノベーションセンターを構築するための資本エンジンを提供しています。

上場プラットフォームの利点を生かし、大湾区の深圳 GEM 企業は、主要ビジネスの質の高い発展に基づいた産業統合をより重視し、伝統的な産業からの転換とアップグレードを推進してきました。7月31日現在、大湾区の GEM 企業は 76 件の再編を実施しており、取引総額は 610 億 5,100 万人民元、調達された資金は 197 億 6,700 万人民元となっています。一方で、多数の企業が M&A により資本市場に参入しており、広東省の 70 社の企業が GEM 上場企業による大規模な資産再編により買収されており、取引総額は 677 億 900 万人民元となっています。

7月31日現在、大湾区の GEM 企業 112 社が、未公開株式の発行、転換社債の発行、株式割当を通じて 934 億 400 万人民元を調達し、大湾区の GEM 企業 129 社への上場前のベンチャーキャピタルからの投資を受けており、その総額は 186 億 3100 万人民元に達しました。

広東省証券監督管理局（広東証監局）のデータによると、8月20日現在、広東省で GEM に今後上場予定の企業は 271 社あり、そのうち 78 社が既に証監局に上場申請しています。

---

## 新興ハイテク企業が全体の 86%を占める

データによると、**1,011** 社の **GEM** 企業は **54** 業種に属しており、そのうちコンピュータ・通信・その他の電子機器製造業、ソフトウェア・情報サービス業、特殊機器製造業、電気器械・設備製造業、化学原料・化学用品製造業に属する企業が **521** 社と **50%**以上を占めています。

なお、**GEM** の **5** 大業種は以下の通りとなっています。

コンピュータ、通信、その他の電子機器製造業：**150** 社

ソフトウェアおよび情報サービス業：**127** 社

特殊機器製造業：**98** 社

電気器械・設備製造業：**81** 社

化学原料・化学用品製造業：**65** 社

登録制により **GEM** に新規上場した **182** 社のうち、ハイエンドの製造業やサービス業が多くを占めており、こちらの上位 **5** 業種は、コンピュータ・通信などの電子機器製造業、特殊機器製造業、一般機器製造業、専門・技術サービス業、電気器械・設備製造業で、合計 **72** 社となり、全体の **40%**近くを占めています。



---

## 【参考資料】

- ・ [佛山のデジタル・インテリジェント化が巨大な市場需要を生み出す](#)
- ・ [217 社の大湾区企業が深圳 GEM 上場 1 年間で 44 社が新規上場](#)